

3. 地方分権と広域連携について

(1) 「地方分権」により、国から地方(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことについて

問 19 あなたは「地方分権」により、国から地方(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことについて、どのように考えますか。あなたの考えに一番近いものを1つだけ選んでください。

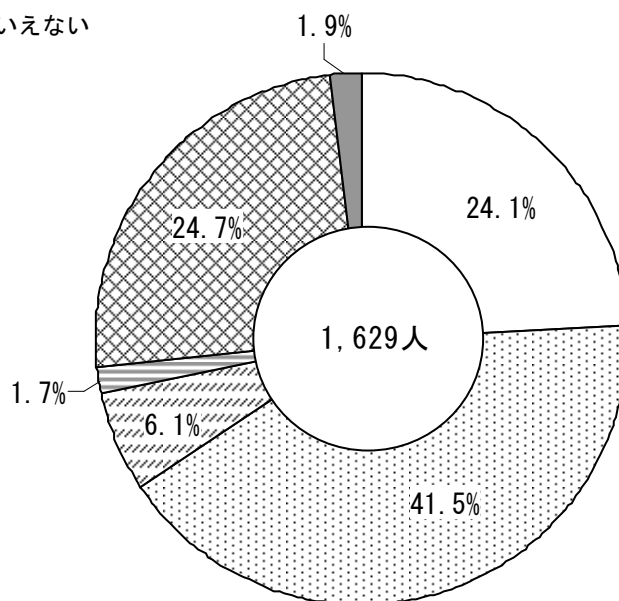
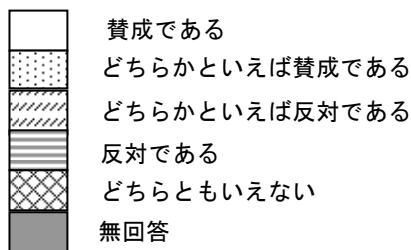
〔回答者数=1,629〕

1 賛成である	24.1%
2 どちらかといえば賛成である	41.5%
3 どちらかといえば反対である	6.1%
4 反対である	1.7%
5 どちらともいえない	24.7%
(無回答)	1.9%

「地方分権」により、国から地方(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことについては、「賛成である」は24.1%であるが、これに「どちらかといえば賛成である」の41.5%を合わせた【賛成】は65.6%と約3分の2を占める。一方、「反対である」(1.7%)に、「どちらかといえば反対である」(6.1%)を合わせた【反対】の割合は7.8%となっている。

〈 「地方分権」により、国から地方(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことについて 〉

凡例



性別にみると、【賛成】は、『男性』70.6%、『女性』62.4%、【反対】は、『男性』7.8%、『女性』7.5%となっている。

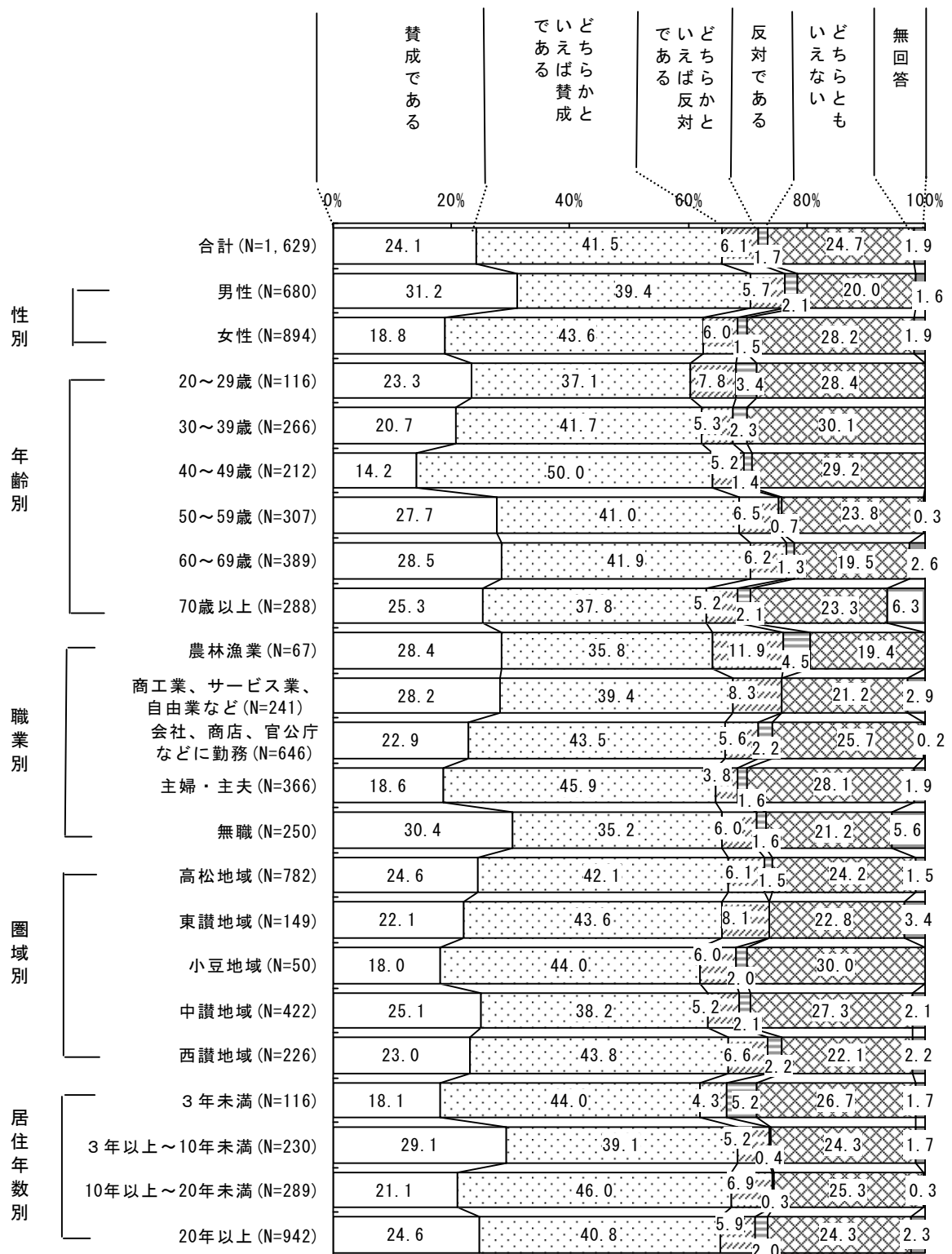
年齢別にみると、いずれも【賛成】は6割を超え、なかでも『60～69歳』が70.4%と7割を超えている。

職業別にみると、【賛成】はどの職業も6割台となっている。

圏域別にみても、【賛成】はどの圏域も6割台となっている。

居住年数別にみても、いずれも【賛成】が6割台となっている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別「地方分権」により、
国から地方(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことについて



(2) 「地方分権」により、国から地方(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことに賛成である
と考える理由

問 19 付問 1 【問 19 で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

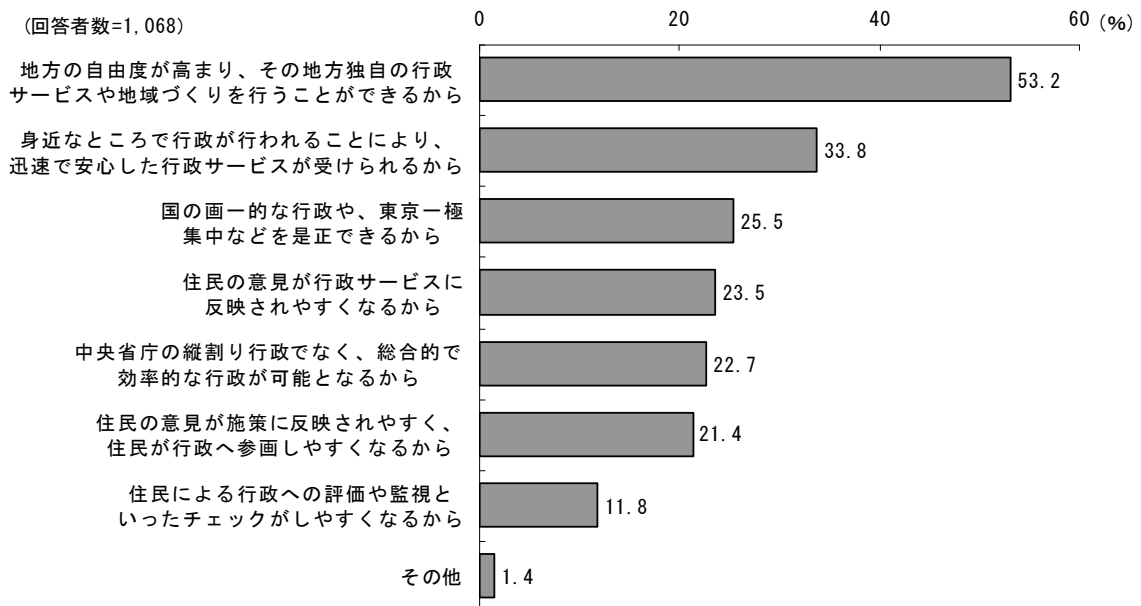
賛成であるとお考えになる理由は何ですか。あなたの考えに近いものを
2つまで選んでください。

〔回答者数=1,068〕

1 地方の自由度が高まり、その地方独自の行政サービスや地域づくりを行うことができるから	53.2%
2 身近なところで行政が行われることにより、迅速で安心した行政サービスが受けられるから	33.8%
3 国の画一的な行政や、東京一極集中などを是正できるから	25.5%
4 住民の意見が行政サービスに反映されやすくなるから	23.5%
5 中央省庁の縦割り行政でなく、総合的で効率的な行政が可能となるから	22.7%
6 住民の意見が施策に反映されやすく、住民が行政へ参画しやすくなるから	21.4%
7 住民による行政への評価や監視といったチェックがしやすくなるから	11.8%
8 その他	1.4%

「地方分権」により、国から地方(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことに賛成である
と考える理由については、「地方の自由度が高まり、その地方独自の行政サービスや地域づくりを行
うことができるから」が 53.2%と半数を超えて最も高く、次いで、「身近なところで行政が行わ
れることにより、迅速で安心した行政サービスが受けられるから」が 33.8%、「国の画一的な行
政や、東京一極集中などを是正できるから」が 25.5%、「住民の意見が行政サービスに反映され
やすくなるから」が 23.5%などとなっている。

「地方分権」により、国から地方(県・市町)へ事務の権限や
税財源を移すことに賛成であるとする理由



性別にみると、男女とも「地方の自由度が高まり、その地方独自の行政サービスや地域づくりを行うことができるから」が半数を超えて最も高く、これに「身近なところで行政が行われることにより、迅速で安心した行政サービスが受けられるから」が3割を超えて続いており、さらに、男性では「国の画一的な行政や、東京一極集中などを是正できるから」が、女性では「住民の意見が行政サービスに反映されやすくなるから」が続いている。

年齢別にみると、いずれも「地方の自由度が高まり、その地方独自の行政サービスや地域づくりを行うことができるから」が4割を超えて最も高く、『70歳以上』以外の年齢層では半数を超えている。これに、『20～29歳』と『30～39歳』では「住民の意見が行政サービスに反映されやすくなるから」が、『40～49歳』から『70歳以上』では「身近なところで行政が行われることにより、迅速で安心した行政サービスが受けられるから」が続いている。

職業別にみると、いずれも「地方の自由度が高まり、その地方独自の行政サービスや地域づくりを行うことができるから」が4割を超えて最も高く、『無職』以外では半数以上となっており、『農林漁業』では6割を超えている。これに、『商工業、サービス業、自由業など』では「国の画一的な行政や、東京一極集中などを是正できるから」が2割台で、そのほかの職業では「身近なところで行政が行われることにより、迅速で安心した行政サービスが受けられるから」が3割～4割台で続いている。

圏域別にみると、小豆地域では「身近なところで行政が行われることにより、迅速で安心した行政サービスが受けられるから」が半数を超えて最も高く、これに、「地方の自由度が高まり、その地方独自の行政サービスや地域づくりを行うことができるから」が4割台で続いている。そのほかの圏域では「地方の自由度が高まり、その地方独自の行政サービスや地域づくりを行うことができるから」が半数弱以上で最も高く、これに、「身近なところで行政が行われることにより、迅速で安心した行政サービスが受けられるから」が2割～3割台で続いている。

居住年数別には、いずれも「地方の自由度が高まり、その地方独自の行政サービスや地域づくりを行うことができるから」が4割を超えて最も高く、『3年未満』以外では半数を超えている。これに、「身近なところで行政が行われることにより、迅速で安心した行政サービスが受けられるから」が3割台で続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別 「地方分権」により、国から
地方(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことに賛成であるとする理由

(単位：%)

区 分		回答者数(人)	この行政サービスが地域づくりを行うことができるから	地方の自由度が高まり、その地方独自の行政サービスが受けられるから	身近なところで行政が行われることにより、迅速で安心した行政サービスが受けられるから	身のまわりの行政サービスが受けられるから	国を正しく行政や、東京一極集中などを是正できるから	住民の意見が行政サービスに反映されやすくなるから	中央省庁の縦割り行政が可能でなく、総合的効率のな行政が可能となるから	住民の意見が行政へ反映されやすくなるから	住民による行政への評価や監視から、住民が行政へ参画しやすくなる	住民による行政への評価や監視から	その他
合 計		1,068	53.2	33.8	25.5	23.5	22.7	21.4	11.8	1.4			
性別	男性	480	52.3	32.1	29.2	22.7	24.8	21.3	10.6	2.1			
	女性	558	53.9	35.3	22.4	24.2	21.5	22.2	12.2	0.7			
年齢別	20～29歳	70	54.3	28.6	25.7	34.3	20.0	20.0	10.0	1.4			
	30～39歳	166	59.6	26.5	23.5	33.1	18.1	19.3	10.8	1.2			
	40～49歳	136	50.7	36.8	23.5	21.3	22.8	18.4	16.9	1.5			
	50～59歳	211	52.6	32.2	26.5	19.4	27.5	26.1	11.4	1.4			
	60～69歳	274	55.1	33.9	24.5	20.4	24.1	24.1	10.9	1.8			
	70歳以上	182	46.7	41.8	29.1	22.0	22.0	18.7	9.3	0.5			
職業別	農林漁業	43	60.5	46.5	11.6	20.9	25.6	16.3	2.3	0.0			
	商工業、サービス業、自由業など	163	56.4	25.8	27.6	19.0	26.4	24.5	13.5	1.2			
	会社、商店、官公庁などに勤務	429	56.9	33.6	24.7	26.3	22.4	19.6	11.2	1.4			
	主婦・主夫	236	50.0	38.1	27.1	20.8	20.3	24.2	11.0	0.4			
	無職	164	42.7	32.3	28.0	25.0	25.0	22.6	12.8	3.0			
圏域別	高松地域	521	53.0	32.8	27.6	24.0	22.3	18.8	13.8	1.3			
	東讃地域	98	55.1	36.7	16.3	21.4	23.5	26.5	14.3	0.0			
	小豆地域	31	48.4	58.1	22.6	25.8	6.5	22.6	6.5	6.5			
	中讃地域	267	55.4	29.2	24.3	21.0	25.8	25.1	10.5	1.5			
	西讃地域	151	49.7	38.4	26.5	27.2	21.2	20.5	6.6	1.3			
居住年数別	3年未満	72	43.1	37.5	26.4	29.2	20.8	22.2	15.3	1.4			
	3年以上～10年未満	157	59.9	32.5	21.7	30.6	18.5	17.8	7.0	2.5			
	10年以上～20年未満	194	54.1	32.0	27.3	18.0	26.8	21.6	13.9	1.5			
	20年以上	616	52.4	34.3	25.8	22.9	23.2	22.7	11.4	1.0			

(3) 「地方分権」により、国から地方(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことに反対である
と考える理由

問 19 付問 2 【問 19 で「3」または「4」と答えた方にお聞きします】

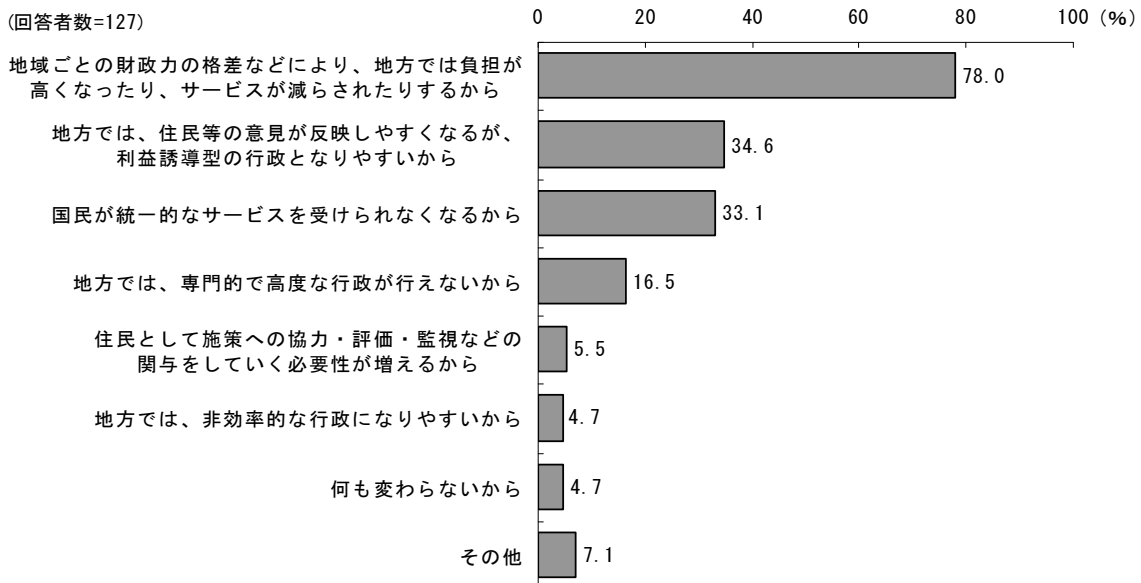
反対であるとお考えになる理由は何ですか。あなたの考えに近いものを
2つまで選んでください。

〔回答者数=127〕

1 地域ごとの財政力の格差などにより、地方では負担が高くなったり、サービスが減らされたりするから	78.0%
2 地方では、住民等の意見が反映しやすくなるが、利益誘導型の行政となりやすいから	34.6%
3 国民が統一的なサービスを受けられなくなるから	33.1%
4 地方では、専門的で高度な行政が行えないから	16.5%
5 住民として施策への協力・評価・監視などの関与をしていく必要性が増えるから	5.5%
6 地方では、非効率的な行政になりやすいから	4.7%
7 何も変わらないから	4.7%
8 その他	7.1%

「地方分権」により、国から地方(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことに反対である
と考える理由については、「地域ごとの財政力の格差などにより、地方では負担が高くなったり、サ
ービスが減らされたりするから」が 78.0%と 8 割近く、これに「地方では、住民等の意見が反映
しやすくなるが、利益誘導型の行政となりやすいから」が 34.6%、「国民が統一的なサービスを
受けられなくなるから」が 33.1%、「地方では、専門的で高度な行政が行えないから」が 16.5%
で続いている。

「地方分権」により、国から地方(県・市町)へ事務の権限や
税財源を移すことに反対であるとする理由



性別にみると、男女とも「地域ごとの財政力の格差などにより、地方では負担が高くなったり、サービスが減らされたりするから」が最も高く、その比率は『男性』71.7%、『女性』83.6%で、これに、「地方では、住民等の意見が反映しやすくなるが、利益誘導型の行政となりやすいから」が『男性』34.0%、『女性』35.8%で続いている。

年齢別にみると、いずれも「地域ごとの財政力の格差などにより、地方では負担が高くなったり、サービスが減らされたりするから」が最も高くなっている。

職業別にみても、いずれも「地域ごとの財政力の格差などにより、地方では負担が高くなったり、サービスが減らされたりするから」が最も高くなっている。

圏域別にみても、どの圏域も「地域ごとの財政力の格差などにより、地方では負担が高くなったり、サービスが減らされたりするから」が最も高くなっている。

居住年数別にみても、いずれも「地域ごとの財政力の格差などにより、地方では負担が高くなったり、サービスが減らされたりするから」が最も高くなっている。

〔 性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別「地方分権」により、国から
地方(県・市町)へ事務の権限や税財源を移すことに反対であるとする理由 〕

(単位：%)

区 分		回答者数(人)	地方分権による負担の増大、サービスの削減などにより、地方自治体の財政力の格差などが拡大しているから	地方では、住民等の意見が反映しやすくなるが、利益誘導型の行政となりやすくなるから	国民が統一的なサービスを受けられないから	地方では、専門的で高度な行政が行えないから	住民として施策への協力・評価・監視などの関与をしていく必要性が増えるから	地方では、非効率的な行政になりやすいから	何も変わらないから	その他
合 計		127	78.0	34.6	33.1	16.5	5.5	4.7	4.7	7.1
性別	男性	53	71.7	34.0	30.2	13.2	5.7	5.7	5.7	15.1
	女性	67	83.6	35.8	34.3	17.9	4.5	4.5	4.5	0.0
年齢別	20～29歳	13	92.3	61.5	15.4	15.4	7.7	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	20	75.0	30.0	45.0	5.0	5.0	0.0	10.0	15.0
	40～49歳	14	92.9	7.1	42.9	7.1	0.0	14.3	0.0	21.4
	50～59歳	22	77.3	31.8	31.8	18.2	4.5	0.0	18.2	4.5
	60～69歳	29	75.9	48.3	24.1	31.0	3.4	3.4	0.0	3.4
	70歳以上	21	66.7	23.8	38.1	9.5	9.5	14.3	0.0	0.0
職業別	農林漁業	11	63.6	18.2	36.4	18.2	9.1	18.2	0.0	18.2
	商工業、サービス業、自由業など	20	80.0	45.0	35.0	10.0	10.0	0.0	5.0	10.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	50	84.0	32.0	30.0	12.0	4.0	6.0	8.0	8.0
	主婦・主夫	20	75.0	30.0	50.0	25.0	5.0	0.0	0.0	0.0
	無職	19	73.7	47.4	15.8	21.1	0.0	5.3	5.3	0.0
圏域別	高松地域	60	75.0	31.7	36.7	21.7	6.7	5.0	8.3	6.7
	東讃地域	12	83.3	50.0	8.3	8.3	0.0	0.0	8.3	25.0
	小豆地域	4	100.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中讃地域	31	77.4	29.0	35.5	12.9	6.5	6.5	0.0	0.0
	西讃地域	20	80.0	45.0	30.0	10.0	5.0	5.0	0.0	10.0
居住年数別	3年未満	11	81.8	27.3	45.5	9.1	0.0	0.0	0.0	27.3
	3年以上～10年未満	13	92.3	38.5	30.8	7.7	7.7	7.7	7.7	0.0
	10年以上～20年未満	21	71.4	33.3	42.9	14.3	9.5	0.0	9.5	9.5
	20年以上	75	77.3	36.0	28.0	18.7	4.0	6.7	4.0	4.0

(4) 「広域連携」のあり方について

問 20 あなたは、広域連携のあり方をどのように考えますか。あなたの考えに一番近いものを1つだけ選んでください。

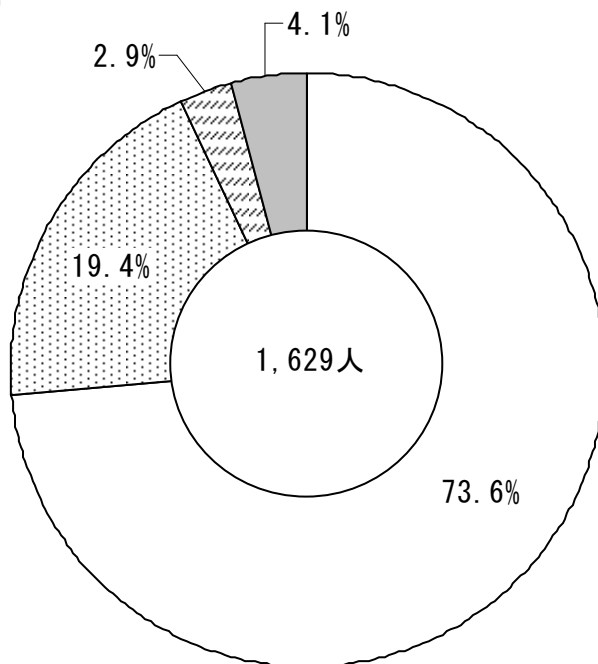
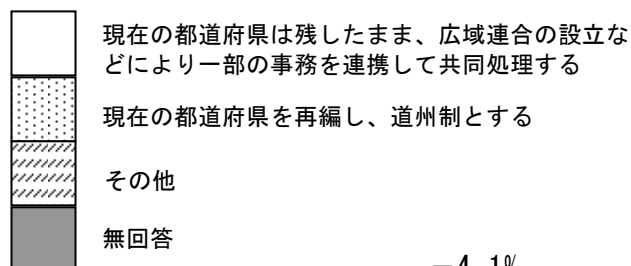
[回答者数=1,629]

1 現在の都道府県は残したまま、広域連合の設立などにより一部の事務を連携して共同処理する	73.6%
2 現在の都道府県を再編し、道州制とする	19.4%
3 その他	2.9%
(無回答)	4.1%

「広域連携」のあり方については、「現在の都道府県は残したまま、広域連合の設立などにより一部の事務を連携して共同処理する」が73.6%と7割を超えている。一方、「現在の都道府県を再編し、道州制とする」は19.4%と2割弱となっている。

〈 「広域連携」のあり方について 〉

凡例



性別にみると、「現在の都道府県は残したまま、広域連合の設立などにより一部の事務を連携して共同処理する」が『男性』70.1%、『女性』77.1%といずれも7割を超えている。一方、「現在の都道府県を再編し、道州制とする」は『男性』24.7%、『女性』15.1%となっている。

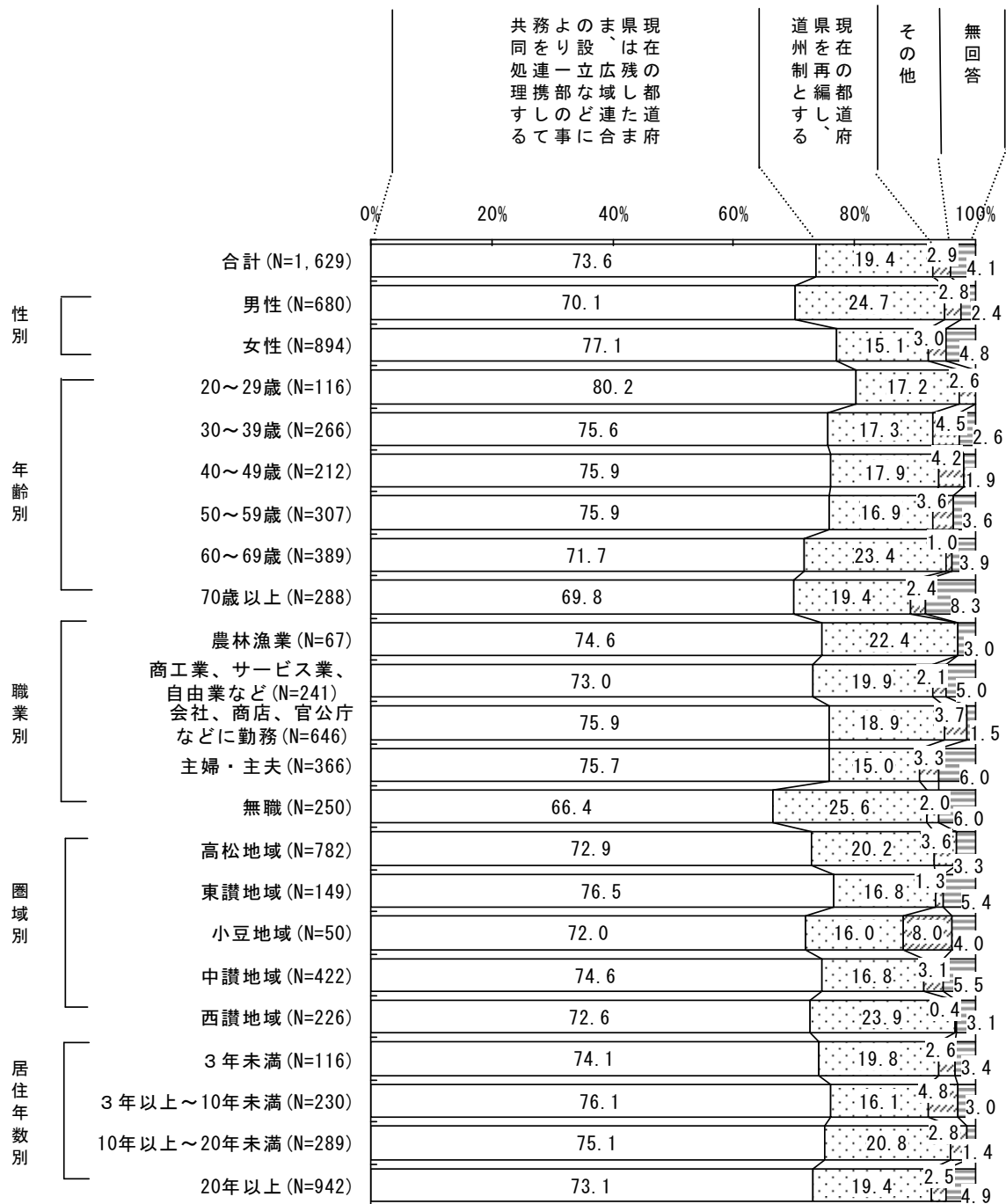
年齢別にみると、いずれも「現在の都道府県は残したまま、広域連合の設立などにより一部の事務を連携して共同処理する」が約7割以上で、『20～29歳』では8割に達している。一方、「現在の都道府県を再編し、道州制とする」は『60～69歳』が23.4%と2割を超えているが、ほかの年齢は2割未満となっている。

職業別にみると、「現在の都道府県は残したまま、広域連合の設立などにより一部の事務を連携して共同処理する」は、『無職』が6割台であるが、ほかの職業は7割台である。一方、「現在の都道府県を再編し、道州制とする」は、『無職』と『農林漁業』が2割台で、ほかの職業は2割未満となっている。

圏域別にみると、いずれも「現在の都道府県は残したまま、広域連合の設立などにより一部の事務を連携して共同処理する」が7割台で、一方、「現在の都道府県を再編し、道州制とする」は、『西讃地域』と『高松地域』が2割台で、ほかの圏域は2割未満となっている。

居住年数別にみると、いずれも「現在の都道府県は残したまま、広域連合の設立などにより一部の事務を連携して共同処理する」が7割台で、一方、「現在の都道府県を再編し、道州制とする」は、『10年以上～20年未満』が2割台で、ほかは2割未満となっている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別「広域連携」のあり方について



(5) 共同処理する事務として特に必要なもの

問 20 付問 1 【問 20 で「1」と答えた方にお聞きします】

共同処理する事務としてどれが特に必要なものと考えますか。あなたの考えに近いものを2つまで選んでください。

〔回答者数=1,199〕

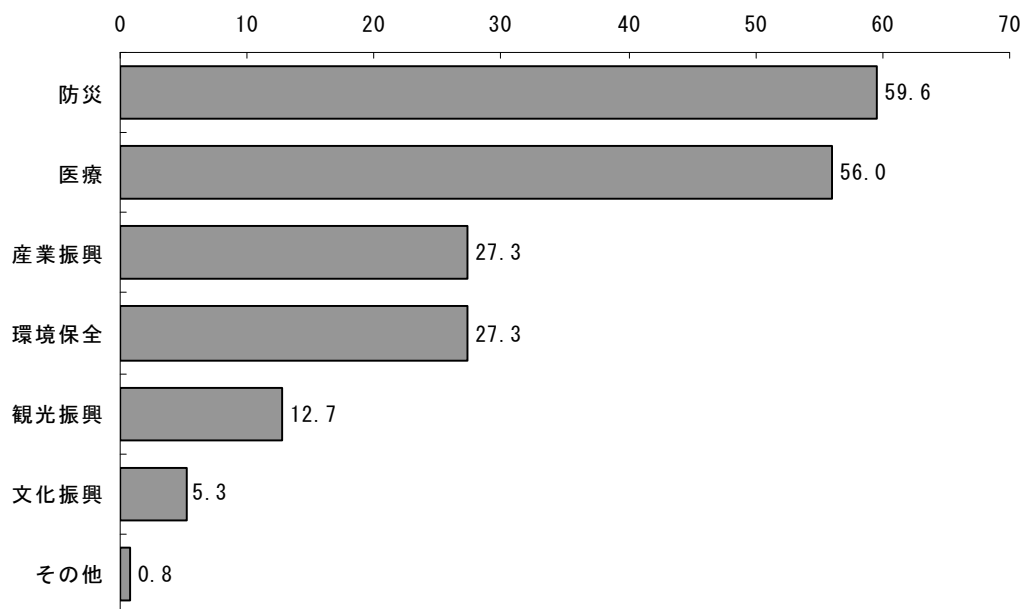
1 防災	59.6%
2 医療	56.0%
3 産業振興	27.3%
4 環境保全	27.3%
5 観光振興	12.7%
6 文化振興	5.3%
7 その他	0.8%

共同処理する事務として特に必要なものとしては、「防災」が 59.6%と 6 割近くで最も高く、「医療」も 56.0%と半数を超えている。そのほか、「産業振興」と「環境保全」がともに 27.3%、「観光振興」が 12.7%などとなっている。

〈共同処理する事務として特に必要なもの〉

(回答者数=1,199)

(%)



性別にみると、『男性』では「防災」が61.0%と最も高く、次いで「医療」が52.0%となっているが、『女性』では「医療」が59.2%と最も高く、次いで「防災」が59.1%となっている。

年齢別にみると、50歳未満の年齢層では「医療」が半数を超えて最も高く、これに「防災」も半数を超えて続いている。50歳以上の年齢層では「防災」が6割を超えて最も高く、これに「医療」も半数を超えて続いている。

職業別にみると、『農林漁業』では「防災」と「医療」がともに64.0%で最も高い。『商工業、サービス業、自由業など』では「医療」が56.3%で最も高く、次いで「防災」が51.1%となっている。そのほかの職業では「防災」が5割を超えて最も高く、これに「医療」が5割を超えて続いている。

圏域別にみると、『小豆地域』と『東讃地域』では「医療」が順に75.0%、59.6%と最も高く、これに「防災」が順に61.1%、55.3%で続いている。ほかの圏域では「防災」が半数を超えて最も高く、これに、「医療」が半数を超えて続いている。

居住年数別にみると、『20年以上』では「防災」が63.0%と6割を超えて最も高く、これに「医療」が55.0%と半数を超えて続いている。このほかでは「医療」が半数を超えて最も高く、『3年未満』では6割を超えている。これに、「防災」が半数を超えて続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別 共同処理する事務として特に必要なもの

(単位：%)

区 分		回 答 者 数 (人)	防 災	医 療	産 業 振 興	環 境 保 全	観 光 振 興	文 化 振 興	そ の 他
合 計		1,199	59.6	56.0	27.3	27.3	12.7	5.3	0.8
性 別	男性	477	61.0	52.0	30.6	25.6	14.0	5.2	1.3
	女性	689	59.1	59.2	24.2	28.4	11.6	4.9	0.6
年 齢 別	20～29歳	93	50.5	58.1	23.7	29.0	18.3	9.7	0.0
	30～39歳	201	53.7	56.2	30.3	23.4	19.9	3.0	1.5
	40～49歳	161	52.2	60.2	29.8	27.3	14.3	7.5	0.6
	50～59歳	233	60.1	53.2	28.8	28.8	11.6	6.4	0.9
	60～69歳	279	67.4	54.1	24.0	29.4	8.2	4.7	0.7
	70歳以上	201	65.2	58.7	23.9	26.4	9.0	2.0	1.0
職 業 別	農林漁業	50	64.0	64.0	24.0	24.0	8.0	4.0	2.0
	商工業、サービス業、 自由業など	176	51.1	56.3	26.7	31.8	13.6	8.5	1.1
	会社、商店、官公庁 などに勤務	490	57.1	53.3	31.6	27.3	15.1	4.9	0.8
	主婦・主夫	277	65.0	61.7	19.9	26.4	10.8	4.3	0.0
	無職	166	66.9	53.0	25.9	26.5	9.0	3.6	1.8
圏 域 別	高松地域	570	58.9	53.5	27.7	27.0	14.0	6.0	1.6
	東讃地域	114	55.3	59.6	28.9	29.8	13.2	5.3	0.0
	小豆地域	36	61.1	75.0	25.0	16.7	11.1	2.8	0.0
	中讃地域	315	62.9	58.7	24.1	26.7	12.4	3.8	0.0
	西讃地域	164	58.5	53.0	31.1	29.9	8.5	6.1	0.6
居 住 年 数 別	3年未満	86	60.5	66.3	24.4	24.4	14.0	2.3	0.0
	3年以上～10年未満	175	52.6	54.3	30.3	28.0	13.7	5.1	1.1
	10年以上～20年未満	217	55.3	58.1	29.5	25.3	13.4	8.8	0.5
	20年以上	689	63.0	55.0	25.4	28.3	11.9	4.2	1.0

(6) 道州制について

問 21 あなたは、道州制についてどう考えますか。あなたの考えに一番近いものを
1つだけ選んでください。

[回答者数=1,629]

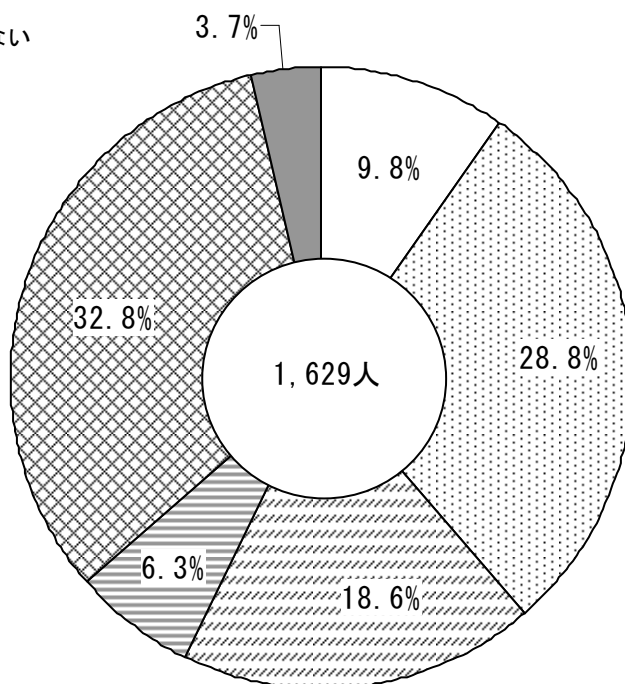
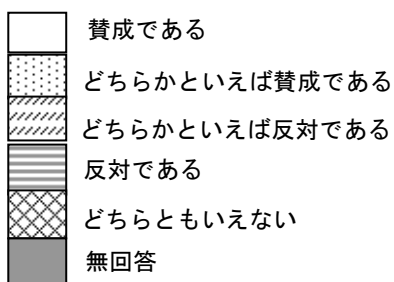
1 賛成である	9.8%
2 どちらかといえば賛成である	28.8%
3 どちらかといえば反対である	18.6%
4 反対である	6.3%
5 どちらともいえない	32.8%
(無回答)	3.7%

道州制については、「どちらともいえない」が32.8%と3割を超えて最も高くなっている。

「どちらかといえば賛成である」が28.8%で、これに「賛成である」の9.8%を合わせた【賛成】は38.6%と4割近くを占める。一方、「反対である」の6.3%と「どちらかといえば反対である」の18.6%を合わせた【反対】は24.9%と2割を超える。

< 道州制について >

凡例



性別にみると、『男性』は「どちらかといえば賛成である」が28.8%で、『女性』は「どちらともいえない」が38.0%で、最も高くなっている。【賛成】【反対】でみると、『男性』では【賛成】が4割台、【反対】が2割台、『女性』では【賛成】が3割台、【反対】が2割台となっている。

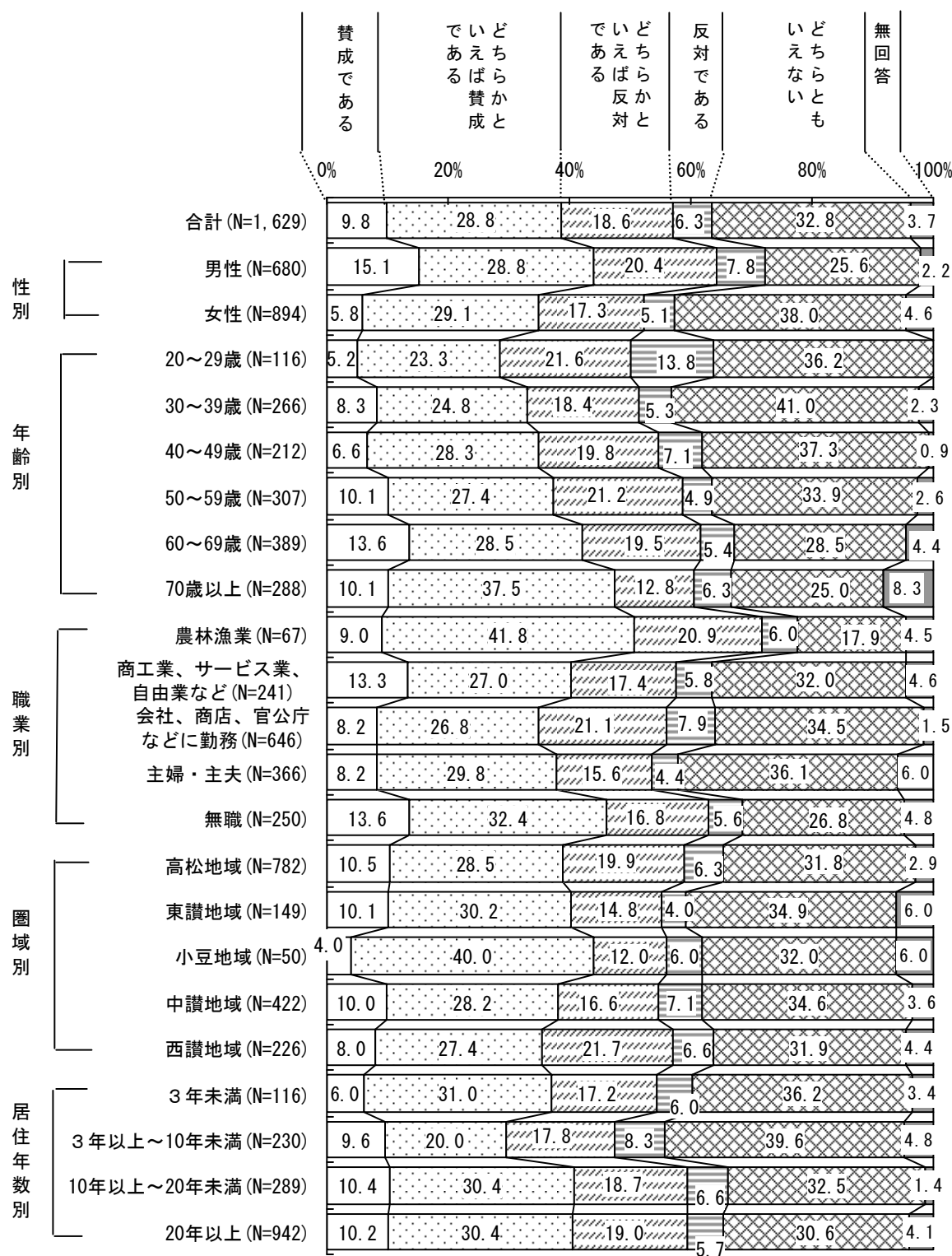
年齢別にみると、『60～69歳』では「どちらかといえば賛成である」と「どちらともいえない」が同率で、『70歳以上』では「どちらかといえば賛成である」が、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』及び『50～59歳』では「どちらともいえない」が最も高い割合を占めている。【賛成】【反対】でみると、『20～29歳』では【賛成】より【反対】の割合が高く、このほかの年齢では【反対】より【賛成】の割合が高い。また、【賛成】の割合は年齢が高いほど高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』と『無職』では「どちらかといえば賛成である」が、そのほかの職業では「どちらともいえない」が最も高い割合となっている。【賛成】【反対】でみると、いずれも【反対】より【賛成】の割合が高く、『農林漁業』では【賛成】が50.8%と半数を超えている。

圏域別にみると、『小豆地域』では「どちらかといえば賛成である」が、そのほかの圏域では「どちらともいえない」が最も高い。【賛成】【反対】でみると、いずれも【賛成】が【反対】の割合よりも高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「どちらともいえない」が最も高い。【賛成】【反対】でみると、いずれも【賛成】が【反対】の割合よりも高くなっている。

〈 性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別 道州制について 〉



(7) 道州制について、賛成であるとする理由

問 21 付問 1 【問 21 で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

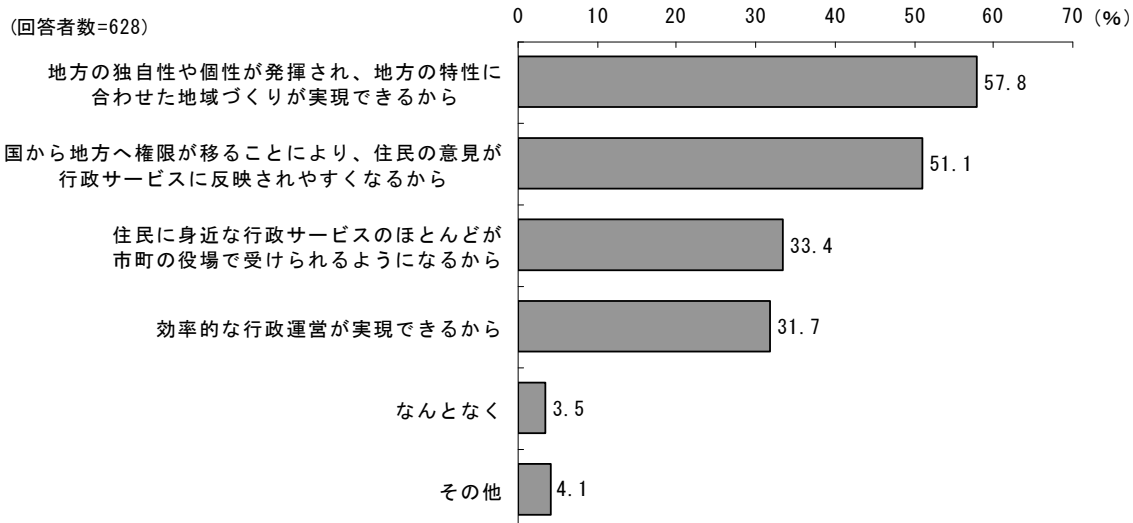
賛成であるとお考えになる理由は何ですか。あなたの考えに近いものを
2つまで選んでください。

[回答者数=628]

1 地方の独自性や個性が発揮され、地方の特性に合わせた地域づくりが実現できるから	57.8%
2 国から地方へ権限が移ることにより、住民の意見が行政サービスに反映されやすくなるから	51.1%
3 住民に身近な行政サービスのほとんどが市町の役場で受けられるようになるから	33.4%
4 効率的な行政運営が実現できるから	31.7%
5 なんとなく	3.5%
6 その他	4.1%

道州制について、賛成であるとする理由をみると、「地方の独自性や個性が発揮され、地方の特性に合わせた地域づくりが実現できるから」が 57.8%と半数を超えて最も高く、次いで、「国から地方へ権限が移ることにより、住民の意見が行政サービスに反映されやすくなるから」も 51.1%と半数を超えている。そのほか、「住民に身近な行政サービスのほとんどが市町の役場で受けられるようになるから」が 33.4%、「効率的な行政運営が実現できるから」が 31.7%となっている。

〈 道州制について、賛成であるとする理由 〉



性別にみると、『男性』では「地方の独自性や個性が発揮され、地方の特性に合わせた地域づくりが実現できるから」が 59.5%と最も高く、これに、「国から地方へ権限が移ることにより、住民の意見が行政サービスに反映されやすくなるから」が 46.8%で続いている。一方、『女性』では「国から地方へ権限が移ることにより、住民の意見が行政サービスに反映されやすくなるから」が 55.8%と最も高く、次いで「地方の独自性や個性が発揮され、地方の特性に合わせた地域づくりが実現できるから」が 55.4%となっている。

年齢別にみると、『70 歳以上』では「国から地方へ権限が移ることにより、住民の意見が行政サービスに反映されやすくなるから」が 57.7%と最も高く、これに、「地方の独自性や個性が発揮され、地方の特性に合わせた地域づくりが実現できるから」が 45.3%で続いている。70 歳未満では「地方の独自性や個性が発揮され、地方の特性に合わせた地域づくりが実現できるから」が半数を超えて最も高く、『20～29 歳』、『50～59 歳』及び『40～49 歳』では 6 割を超えている。次いで、「国から地方へ権限が移ることにより、住民の意見が行政サービスに反映されやすくなるから」が 4 割～5 割台となっている。

職業別にみると、『主婦・主夫』では「国から地方へ権限が移ることにより、住民の意見が行政サービスに反映されやすくなるから」が半数を超えて最も高く、これに「地方の独自性や個性が発揮され、地方の特性に合わせた地域づくりが実現できるから」も半数を超えて続いている。そのほかの職業では「地方の独自性や個性が発揮され、地方の特性に合わせた地域づくりが実現できるから」が半数を超えて最も高く、『農林漁業』と『会社、商店、官公庁などに勤務』では 6 割を超えている。次いで「国から地方へ権限が移ることにより、住民の意見が行政サービスに反映されやすくなるから」が 4 割～5 割台となっている。

圏域別にみると、どの圏域も「地方の独自性や個性が発揮され、地方の特性に合わせた地域づくりが実現できるから」が半数以上で最も高く、『東讃地域』では 6 割を超えている。これに、『小豆地域』では「住民に身近な行政サービスのほとんどが市町の役場で受けられるようになるから」と「効率的な行政運営が実現できるから」がともに 40.9%で、そのほかの圏域では「国から地方へ権限が移ることにより、住民の意見が行政サービスに反映されやすくなるから」が半数弱以上で続いている。

居住年数別にみると、いずれも「地方の独自性や個性が発揮され、地方の特性に合わせた地域づくりが実現できるから」が半数を超えて最も高く、『10 年以上～20 年未満』は 6 割を超えている。次いで「国から地方へ権限が移ることにより、住民の意見が行政サービスに反映されやすくなるから」が 4 割弱以上となっている。

〈 性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別 道州制について、賛成であるとする理由 〉

(単位：%)

区 分		回答者数(人)	つれ、地方の独自性や個性が活かされ、地域づくりに貢献できる	より、地方の意見が反映される	国から地方へ権限が移ることにより、地方の活性化が図れる	住民に身近な行政サービスを受けられるようになる	効率的な行政運営が実現できる	なんとなく	その他
合 計		628	57.8	51.1	33.4	31.7	3.5	4.1	
性別	男性	299	59.5	46.8	31.4	35.1	4.3	6.0	
	女性	312	55.4	55.8	35.6	28.5	2.6	1.9	
年齢別	20～29歳	33	69.7	51.5	18.2	30.3	6.1	6.1	
	30～39歳	88	55.7	52.3	30.7	36.4	3.4	5.7	
	40～49歳	74	60.8	41.9	32.4	37.8	1.4	2.7	
	50～59歳	115	64.3	42.6	25.2	33.9	7.0	6.1	
	60～69歳	164	59.8	56.1	36.0	29.9	1.8	3.7	
	70歳以上	137	45.3	57.7	43.8	26.3	2.9	1.5	
職業別	農林漁業	34	64.7	58.8	44.1	14.7	2.9	0.0	
	商工業、サービス業、自由業など	97	56.7	41.2	36.1	35.1	3.1	5.2	
	会社、商店、官公庁などに勤務	226	60.2	51.3	27.0	33.2	4.9	4.9	
	主婦・主夫	139	51.8	58.3	36.7	29.5	2.2	2.2	
	無職	115	58.3	48.7	36.5	33.9	2.6	4.3	
圏域別	高松地域	305	59.7	49.8	32.5	32.1	3.6	3.9	
	東讃地域	60	61.7	55.0	35.0	25.0	0.0	6.7	
	小豆地域	22	50.0	31.8	40.9	40.9	9.1	4.5	
	中讃地域	161	54.7	53.4	33.5	34.8	3.7	3.7	
居住年数別	西讃地域	80	56.3	53.8	33.8	26.3	3.8	3.8	
	3年未満	43	58.1	39.5	34.9	32.6	4.7	9.3	
	3年以上～10年未満	68	55.9	45.6	29.4	42.6	1.5	4.4	
	10年以上～20年未満	118	63.6	50.0	28.8	34.7	4.2	2.5	
20年以上	382	55.8	54.2	35.6	28.8	3.4	3.7		

(8) 道州制について、反対であるとする理由

問 21 付問 2 【問 21 で「3」または「4」と答えた方にお聞きします】

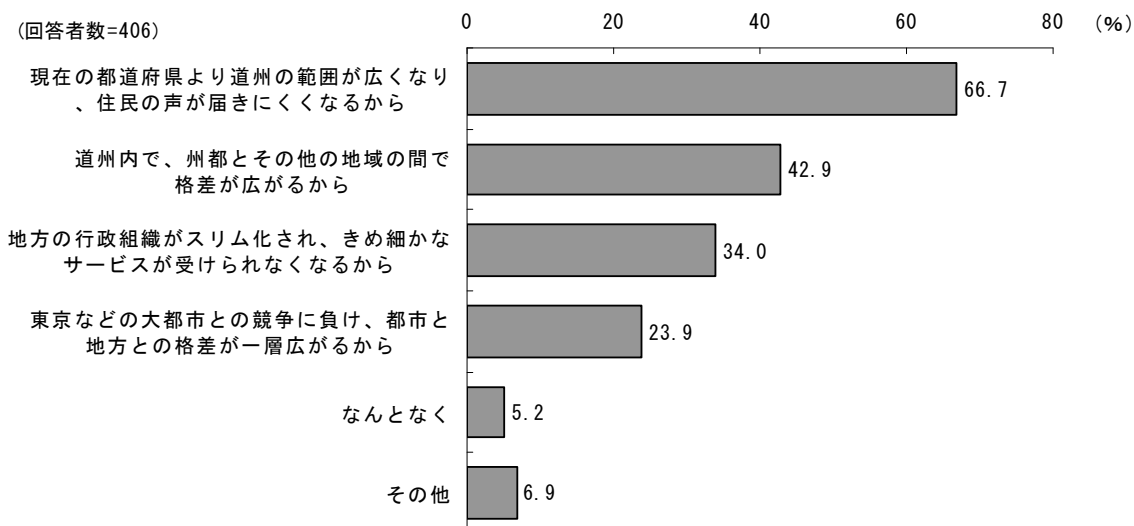
反対であるとお考えになる理由は何ですか。あなたの考えに近いものを
2つまで選んでください。

[回答者数=406]

1	現在の都道府県より道州の範囲が広くなり、住民の声が届きにくくなるから	66.7%
2	道州内で、州都とその他の地域の間で格差が広がるから	42.9%
3	地方の行政組織がスリム化され、きめ細かなサービスが受けられなくなるから	34.0%
4	東京などの大都市との競争に負け、都市と地方との格差が一層広がるから	23.9%
5	なんとなく	5.2%
6	その他	6.9%

道州制について、反対であるとする理由をみると、「現在の都道府県より道州の範囲が広くなり、住民の声が届きにくくなるから」が 66.7%と3分の2を占めて最も高く、次いで、「道州内で、州都とその他の地域の間で格差が広がるから」が 42.9%、「地方の行政組織がスリム化され、きめ細かなサービスが受けられなくなるから」が 34.0%などとなっている。

〈 道州制について、反対であるとする理由 〉



性別にみると、男女とも「現在の都道府県より道州の範囲が広くなり、住民の声が届きにくくなるから」が最も高く、その比率は『男性』64.1%、『女性』70.1%となっている。これに、「道州内で、州都とその他の地域の間で格差が広がるから」が『男性』45.3%、『女性』40.8%で続いている。

年齢別にみると、どの年齢層でも「現在の都道府県より道州の範囲が広くなり、住民の声が届きにくくなるから」が半数を超えて最も高く、30歳以上の年齢層は6割を超え、なかでも『50～59歳』は7割を超えている。これに、『70歳以上』では「地方の行政組織がスリム化され、きめ細かなサービスが受けられなくなるから」が4割で、70歳未満では「道州内で、州都とその他の地域の間で格差が広がるから」が3割～5割台で続いている。

職業別にみると、どの職業でも「現在の都道府県より道州の範囲が広くなり、住民の声が届きにくくなるから」が半数を超えて最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』以外は6割を超え、なかでも『主婦・主夫』は7割を超えている。これに、『農林漁業』と『無職』では「地方の行政組織がスリム化され、きめ細かなサービスが受けられなくなるから」が4割～5割台で、そのほかの職業では「道州内で、州都とその他の地域の間で格差が広がるから」が4割台で続いている。

圏域別にみると、どの圏域でも「現在の都道府県より道州の範囲が広くなり、住民の声が届きにくくなるから」が半数を超えて最も高く、『東讃地域』以外の圏域は6割を超え、なかでも『小豆地域』と『中讃地域』は7割以上となっている。これに、小豆地域では「地方の行政組織がスリム化され、きめ細かなサービスが受けられなくなるから」と「道州内で、州都とその他の地域の間で格差が広がるから」が33.3%と同率で、そのほかの圏域では「道州内で、州都とその他の地域の間で格差が広がるから」が4割弱～4割台で続いている。

居住年数別には、いずれも「現在の都道府県より道州の範囲が広くなり、住民の声が届きにくくなるから」が最も高く、その比率は『3年未満』では6割弱、そのほかでは6割台となっている。これに、『3年未満』では「東京などの大都市との競争に負け、都市と地方との格差が一層広がるから」が4割を超えて、そのほかでは「道州内で、州都とその他の地域の間で格差が広がるから」が4割弱～5割台で続いている。

〈 性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別 道州制について、反対であるとする理由 〉

(単位：%)

区 分		回答者数(人)	現在が 広く なる から	道州 間で 格差 が 広がる から	地方の 行政 組織 が サービス が 受 け られ ない から	東京 など の 大都市 との 競争 に 負 け る から	なんと なく	そ の 他
合 計		406	66.7	42.9	34.0	23.9	5.2	6.9
性別	男性	192	64.1	45.3	31.8	25.0	4.2	9.9
	女性	201	70.1	40.8	35.8	22.9	5.5	4.5
年齢別	20～29歳	41	56.1	48.8	26.8	19.5	7.3	12.2
	30～39歳	63	68.3	36.5	28.6	33.3	6.3	7.9
	40～49歳	57	68.4	50.9	33.3	19.3	1.8	7.0
	50～59歳	80	72.5	46.3	36.3	18.8	2.5	7.5
	60～69歳	97	68.0	42.3	35.1	28.9	4.1	5.2
	70歳以上	55	63.6	34.5	40.0	20.0	9.1	5.5
職業別	農林漁業	18	61.1	27.8	55.6	27.8	5.6	5.6
	商工業、サービス業、 自由業など	56	58.9	42.9	32.1	32.1	3.6	12.5
	会社、商店、官公庁 などに勤務	187	69.0	47.6	32.1	21.4	3.2	7.0
	主婦・主夫	73	71.2	41.1	28.8	19.2	11.0	4.1
	無職	56	64.3	35.7	42.9	28.6	3.6	7.1
圏域別	高松地域	205	67.3	41.5	33.2	23.9	4.9	9.8
	東讃地域	28	53.6	42.9	35.7	35.7	3.6	3.6
	小豆地域	9	77.8	33.3	33.3	11.1	11.1	0.0
	中讃地域	100	70.0	49.0	35.0	18.0	6.0	4.0
	西讃地域	64	64.1	39.1	34.4	29.7	4.7	4.7
居住年数別	3年未満	27	59.3	37.0	29.6	40.7	0.0	11.1
	3年以上～10年未満	60	65.0	46.7	26.7	28.3	1.7	8.3
	10年以上～20年未満	73	67.1	52.1	37.0	11.0	6.8	6.8
	20年以上	233	68.7	39.9	35.2	24.9	5.6	6.4

(9) 道州制になる場合に、よいと思う区域割り

問 22 道州の区域割りについておたずねします。もし道州制になるとすれば、現在の香川県を含む州はどのような区域がよいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。

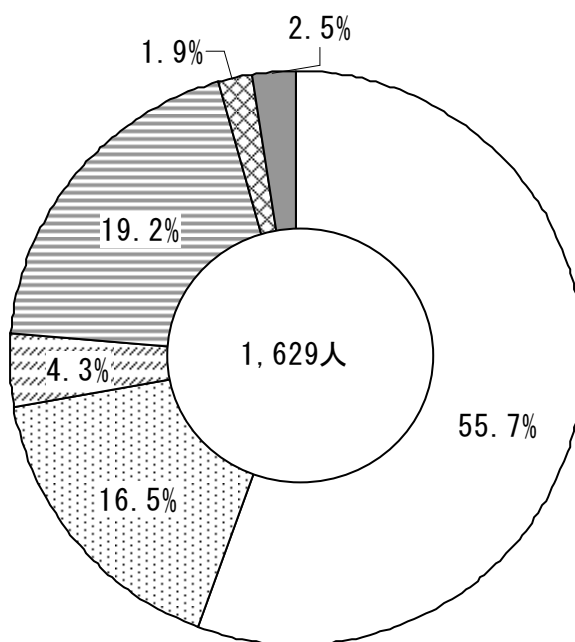
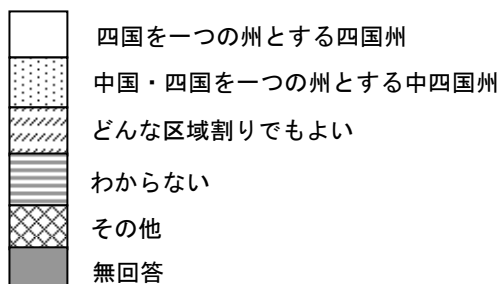
[回答者数=1,629]

1 四国を一つの州とする四国州	55.7%
2 中国・四国を一つの州とする中四国州	16.5%
3 どんな区域割りでもよい	4.3%
4 わからない	19.2%
5 その他	1.9%
(無回答)	2.5%

道州制になる場合に、よいと思う区域割りについては、「四国を一つの州とする四国州」が55.7%と半数を超え最も高く、「中国・四国を一つの州とする中四国州」が16.5%、「どんな区域割りでもよい」が4.3%などとなっている。そのほか、「わからない」が19.2%と2割近くを占めている。

〈 道州制になる場合に、よいと思う区域割り 〉

凡例



性別にみると、男女とも「四国を一つの州とする四国州」が最も高く、その割合は『男性』が64.7%、『女性』は49.1%である。「中国・四国を一つの州とする中四国州」は『男性』16.0%、『女性』17.0%となっている。『女性』では「わからない」が24.4%と2割を超えている。

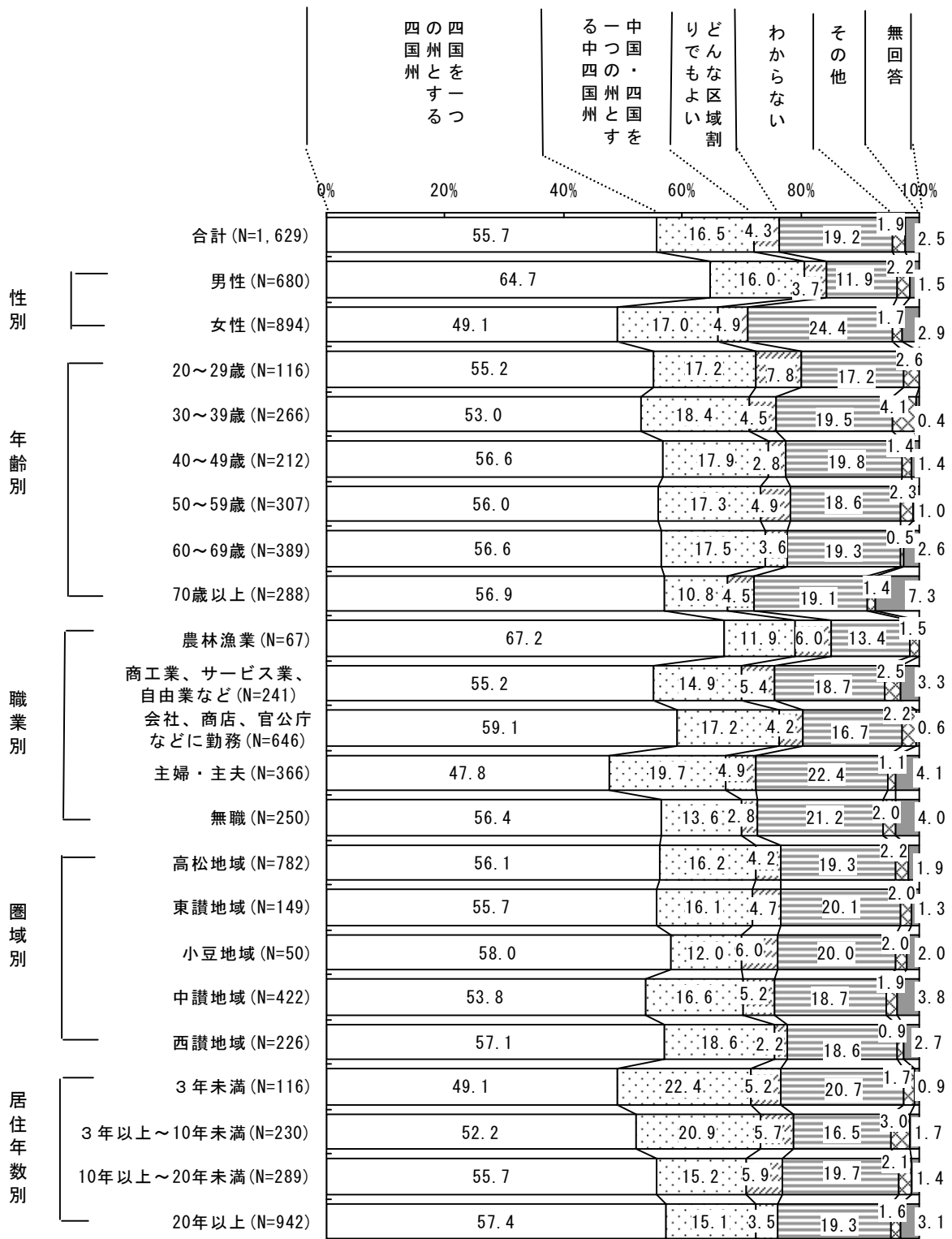
年齢別にみると、いずれも「四国を一つの州とする四国州」が5割台と最も高くなっている。これに、『20～29歳』では「中国・四国を一つの州とする中四国州」と「わからない」がともに17.2%で、そのほかの年齢層では「わからない」が19%前後で、続いている。

職業別にみると、いずれも「四国を一つの州とする四国州」が最も高いが、その割合は『農林漁業』が67.2%、『主婦・主夫』が47.8%、そのほかは5割台となっている。『主婦・主夫』と『無職』では「わからない」が順に22.4%、21.2%と2割を超えている。

圏域別にみると、どの圏域でも「四国を一つの州とする四国州」が5割台で最も高い。『東讃地域』と『小豆地域』では「わからない」が2割以上となっている。

居住年数別にみると、いずれも「四国を一つの州とする四国州」が最も高く、その割合は居住年数が長いほど高くなっており、3年以上の居住年数では半数を超えている。「中国・四国を一つの州とする中四国州」については、居住年数が短いほどその割合が高くなり、『3年未満』と『3年以上～10年未満』では2割を超えている。

〈性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別 道州制になる場合に、よいと思う区域割り〉



4. 県政の重要度と満足度について

現在、県では新しい総合計画を策定中ですが、これまで県が取り組んできた「香川県新世紀基本構想 みどり・うるおい・にぎわい創造プラン」(平成13～22年度)の各施策の達成状況を評価したいと思いますので、各施策に対する重要度と満足度について皆さまの考えをお伺いします。以下の質問にお答えください。

「重要度」については、あなたが今の生活やこれからの生活を送っていくうえで各施策がどのくらい重要かを、また、「満足度」については、あなたが各施策に対して現状にどのくらい満足しているかを、それぞれ五段階で評価してください。

(1) 安全で快適な生活空間 (重要度)

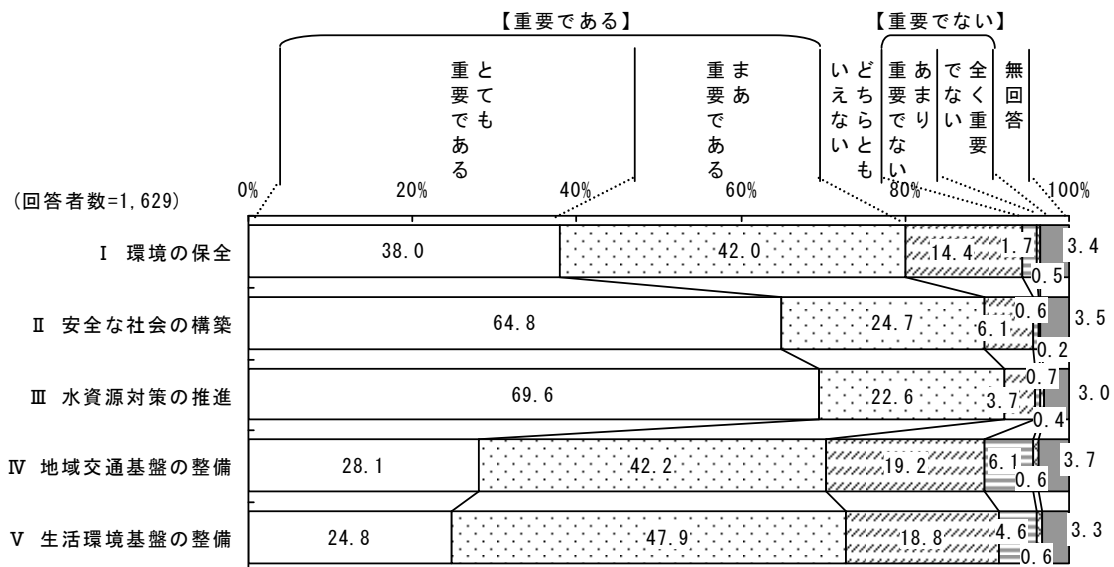
問 23 「安全で快適な生活空間」についておたずねします。I～Vの各施策についてあなたの<重要度>を、1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

	重要度					無回答
	① とても重要である	② まあ重要である	③ どちらともいえない	④ あまり重要でない	⑤ 全く重要でない	
〔回答者数=1,629〕						
I 環境の保全	38.0	42.0	14.4	1.7	0.5	3.4
II 安全な社会の構築	64.8	24.7	6.1	0.6	0.2	3.5
III 水資源対策の推進	69.6	22.6	3.7	0.7	0.4	3.0
IV 地域交通基盤の整備	28.1	42.2	19.2	6.1	0.6	3.7
V 生活環境基盤の整備	24.8	47.9	18.8	4.6	0.6	3.3

「安全で快適な生活空間」について重要度をみると、どの施策項目でも「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】という人が7割を超えており、なかでも『水資源対策の推進』は92.2%と9割を超え、『安全な社会の構築』は89.5%と9割近くとなっている。

〈 安全で快適な生活空間(重要度) 〉



(2) 安全で快適な生活空間 (満足度)

問 23 「安全で快適な生活空間」についておたずねします。I～Vの各施策についてあなたの<満足度>を、1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

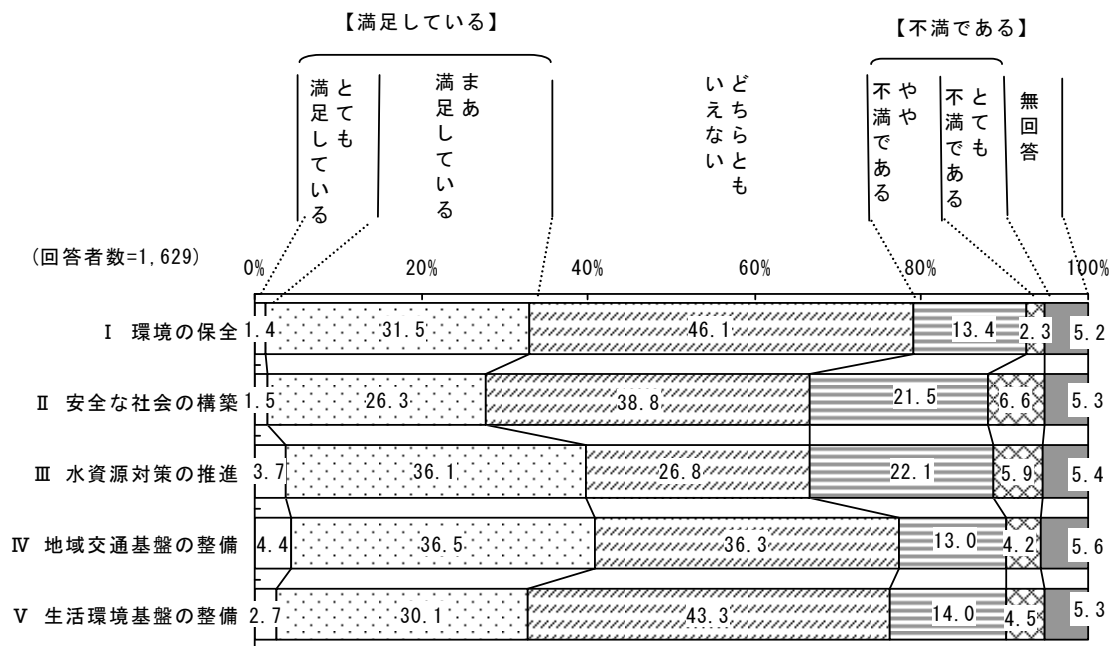
(単位：%)

	満足度					
	① とても満足している	② まあ満足している	③ どちらともいえない	④ やや不満である	⑤ とても不満である	無回答
[回答者数=1,629]						
I 環境の保全	1.4	31.5	46.1	13.4	2.3	5.2
II 安全な社会の構築	1.5	26.3	38.8	21.5	6.6	5.3
III 水資源対策の推進	3.7	36.1	26.8	22.1	5.9	5.4
IV 地域交通基盤の整備	4.4	36.5	36.3	13.0	4.2	5.6
V 生活環境基盤の整備	2.7	30.1	43.3	14.0	4.5	5.3

「安全で快適な生活空間」について満足度をみると、『環境の保全』と『生活環境基盤の整備』では「どちらともいえない」が4割を超えている。

『環境の保全』、『水資源対策の推進』、『地域交通基盤の整備』、『生活環境基盤の整備』については、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】という人が、「とても不満である」と「やや不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。『安全な社会の構築』については、【不満である】が【満足している】をやや上回っている。

〈 安全で快適な生活空間(満足度) 〉



(3) ささえあい、安心して暮らせる社会（重要度）

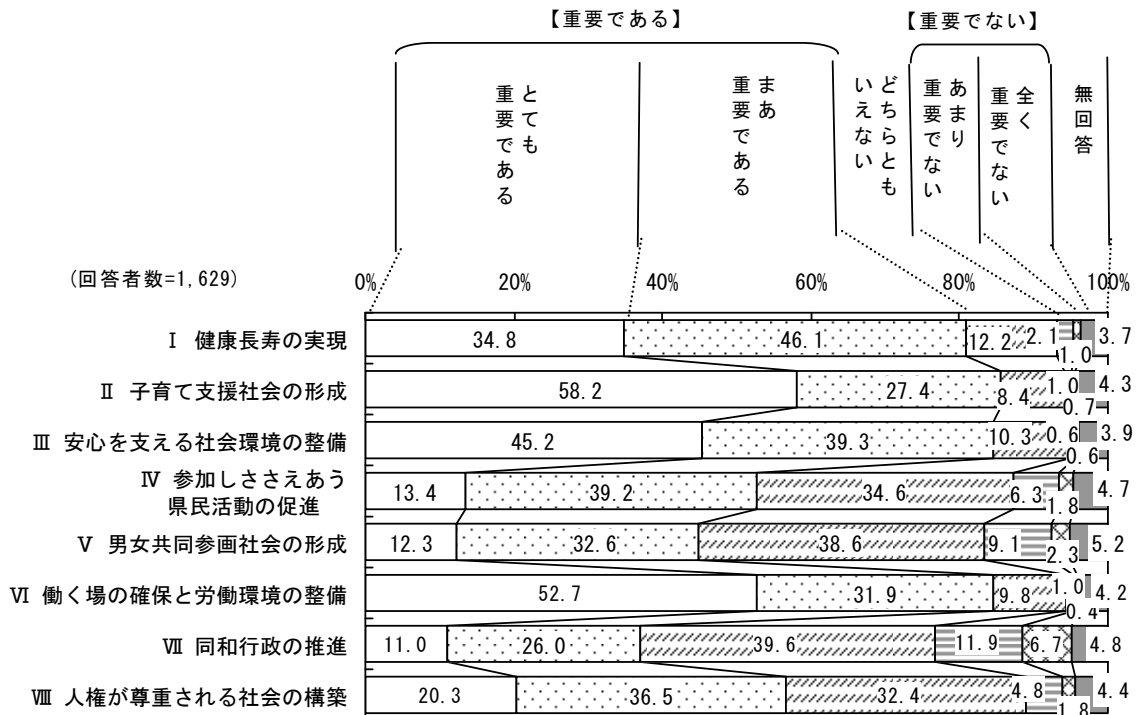
問 24 「ささえあい、安心して暮らせる社会」についておたずねします。Ⅰ～Ⅷの各施策についてあなたの〈重要度〉を、1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

	重要度					
	①とても重要である	②まあ重要である	③どちらともいえない	④あまり重要でない	⑤全く重要でない	無回答
〔回答者数=1,629〕						
Ⅰ 健康長寿の実現	34.8	46.1	12.2	2.1	1.0	3.7
Ⅱ 子育て支援社会の形成	58.2	27.4	8.4	1.0	0.7	4.3
Ⅲ 安心を支える社会環境の整備	45.2	39.3	10.3	0.6	0.6	3.9
Ⅳ 参加しさえあう県民活動の促進	13.4	39.2	34.6	6.3	1.8	4.7
Ⅴ 男女共同参画社会の形成	12.3	32.6	38.6	9.1	2.3	5.2
Ⅵ 働く場の確保と労働環境の整備	52.7	31.9	9.8	1.0	0.4	4.2
Ⅶ 同和行政の推進	11.0	26.0	39.6	11.9	6.7	4.8
Ⅷ 人権が尊重される社会の構築	20.3	36.5	32.4	4.8	1.8	4.4

「ささえあい、安心して暮らせる社会」について重要度をみると、ほとんどの施策項目で【重要である】という人が半数を超えており、なかでも『子育て支援社会の形成』は85.6%、『働く場の確保と労働環境の整備』は84.6%、『安心を支える社会環境の整備』は84.5%、『健康長寿の実現』は80.9%と8割を超えている。

〈 ささえあい、安心して暮らせる社会(重要度) 〉



(4) ささえあい、安心して暮らせる社会 (満足度)

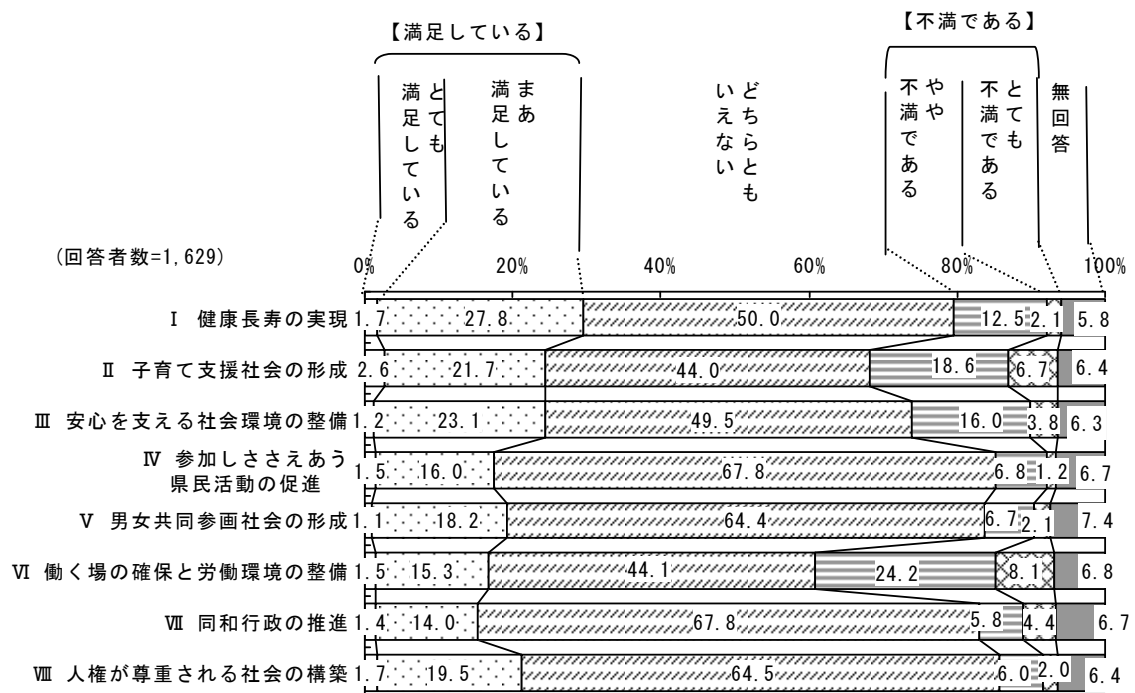
問 24 「ささえあい、安心して暮らせる社会」についておたずねします。Ⅰ～Ⅷの各施策についてあなたの〈満足度〉を、1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。
(単位：%)

	満足度					
	①とても満足している	②まあ満足している	③どちらともいえない	④やや不満である	⑤とても不満である	無回答
〔回答者数=1,629〕						
Ⅰ 健康長寿の実現	1.7	27.8	50.0	12.5	2.1	5.8
Ⅱ 子育て支援社会の形成	2.6	21.7	44.0	18.6	6.7	6.4
Ⅲ 安心を支える社会環境の整備	1.2	23.1	49.5	16.0	3.8	6.3
Ⅳ 参加しさえあう県民活動の促進	1.5	16.0	67.8	6.8	1.2	6.7
Ⅴ 男女共同参画社会の形成	1.1	18.2	64.4	6.7	2.1	7.4
Ⅵ 働く場の確保と労働環境の整備	1.5	15.3	44.1	24.2	8.1	6.8
Ⅶ 同和行政の推進	1.4	14.0	67.8	5.8	4.4	6.7
Ⅷ 人権が尊重される社会の構築	1.7	19.5	64.5	6.0	2.0	6.4

「ささえあい、安心して暮らせる社会」について満足度をみると、『参加しさえあう県民活動の促進』、『同和行政の推進』、『人権が尊重される社会の構築』及び『男女共同参画社会の形成』では「どちらともいえない」が6割を超えており、そのほかの施策項目も4割以上となっている。

『働く場の確保と労働環境の整備』と『子育て支援社会の形成』については、【不満である】という人が、【満足している】という人を上回っている。なかでも『働く場の確保と労働環境の整備』では【不満である】が32.3%と3割を超えている。

く ささえあい、安心して暮らせる社会 (満足度) 〉



(5) きらめく個性、豊かな心(重要度)

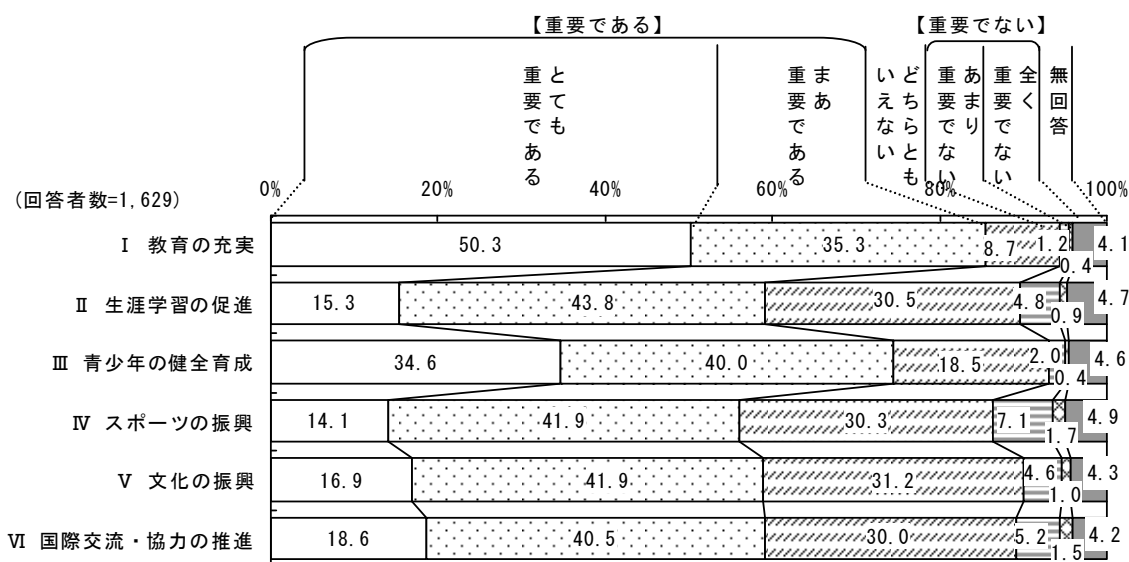
問 25 「きらめく個性、豊かな心」についておたずねします。I～VIの各施策についてあなたの〈重要度〉を、1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

	重要度					
	①とても重要である	②まあ重要である	③どちらともいえない	④あまり重要でない	⑤全く重要でない	無回答
[回答者数=1,629]						
I 教育の充実	50.3	35.3	8.7	1.2	0.4	4.1
II 生涯学習の促進	15.3	43.8	30.5	4.8	0.9	4.7
III 青少年の健全育成	34.6	40.0	18.5	2.0	0.4	4.6
IV スポーツの振興	14.1	41.9	30.3	7.1	1.7	4.9
V 文化の振興	16.9	41.9	31.2	4.6	1.0	4.3
VI 国際交流・協力の推進	18.6	40.5	30.0	5.2	1.5	4.2

「きらめく個性、豊かな心」について重要度をみると、どの施策項目でも【重要である】という人が半数を超えており、なかでも『教育の充実』は85.6%、『青少年の健全育成』は74.6%と、他の施策項目に比べ高い割合となっている。

〈 きらめく個性、豊かな心(重要度) 〉



(6) きらめく個性、豊かな心(満足度)

問 25 「きらめく個性、豊かな心」についておたずねします。I～VIの各施策についてあなたの〈満足度〉を、1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

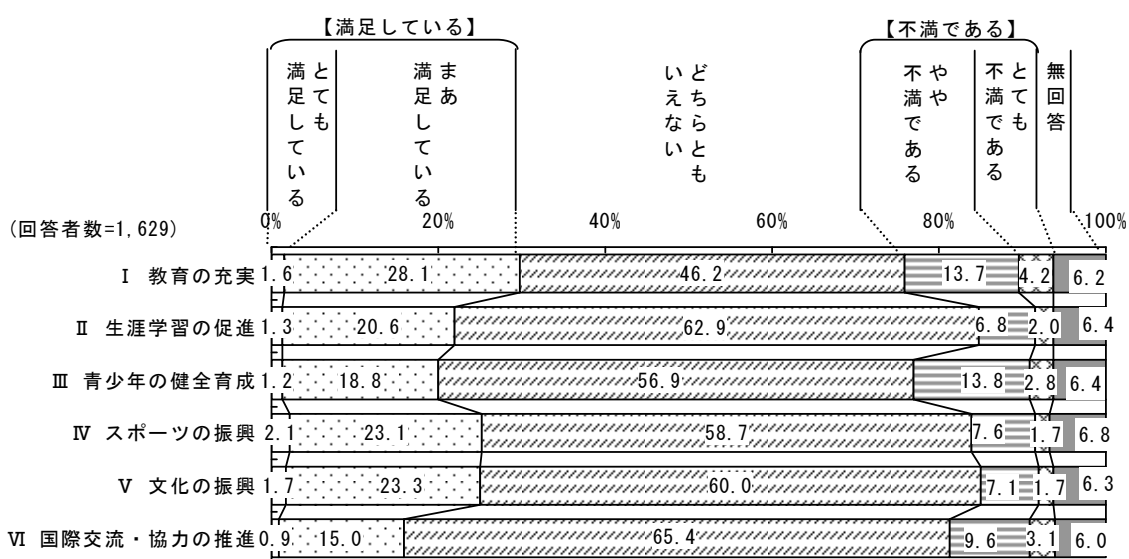
(単位：%)

	満足度					
	①とても満足している	②まあ満足している	③どちらともいえない	④やや不満である	⑤とても不満である	無回答
[回答者数=1,629]						
I 教育の充実	1.6	28.1	46.2	13.7	4.2	6.2
II 生涯学習の促進	1.3	20.6	62.9	6.8	2.0	6.4
III 青少年の健全育成	1.2	18.8	56.9	13.8	2.8	6.4
IV スポーツの振興	2.1	23.1	58.7	7.6	1.7	6.8
V 文化の振興	1.7	23.3	60.0	7.1	1.7	6.3
VI 国際交流・協力の推進	0.9	15.0	65.4	9.6	3.1	6.0

「きらめく個性、豊かな心」について満足度をみると、『教育の充実』以外の施策項目では「どちらともいえない」が半数を超えており、なかでも『国際交流・協力の推進』、『生涯学習の促進』及び『文化の振興』は6割以上となっている。

どの施策項目についても、【満足している】という人が【不満である】という人を上回っている。

〈 きらめく個性、豊かな心(満足度) 〉



(7) 創造性と活力あふれる地域 (重要度)

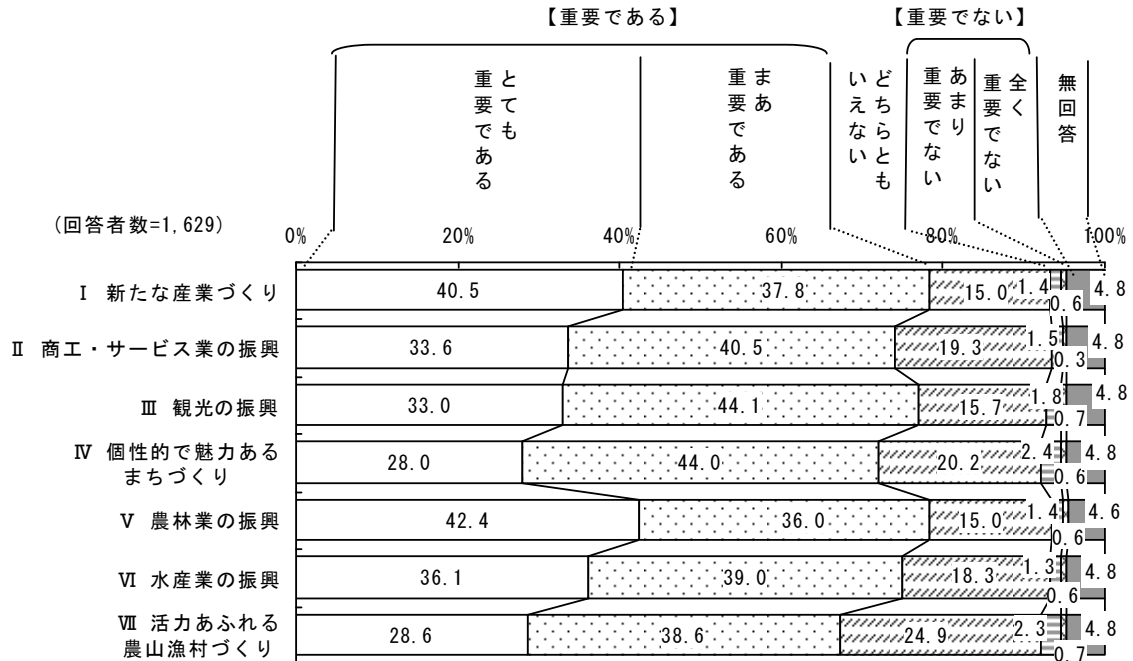
問 26 「創造性と活力あふれる地域」についておたずねします。Ⅰ～Ⅶの各施策についてあなたの<重要度>を、1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

	重要度					
	① とても 重要である	② まあ 重要である	③ どちらとも いえない	④ あまり 重要でない	⑤ 全く 重要でない	無 回答
[回答者数=1,629]						
Ⅰ 新たな産業づくり	40.5	37.8	15.0	1.4	0.6	4.8
Ⅱ 商工・サービス業の振興	33.6	40.5	19.3	1.5	0.3	4.8
Ⅲ 観光の振興	33.0	44.1	15.7	1.8	0.7	4.8
Ⅳ 個性的で魅力あるまちづくり	28.0	44.0	20.2	2.4	0.6	4.8
Ⅴ 農林業の振興	42.4	36.0	15.0	1.4	0.6	4.6
Ⅵ 水産業の振興	36.1	39.0	18.3	1.3	0.6	4.8
Ⅶ 活力あふれる農山漁村づくり	28.6	38.6	24.9	2.3	0.7	4.8

「創造性と活力あふれる地域」について重要度をみると、『活力あふれる農山漁村づくり』以外の施策項目については、【重要である】という人が7割を超えている。

< 創造性と活力あふれる地域(重要度) >



(8) 創造性と活力あふれる地域 (満足度)

問 26 「創造性と活力あふれる地域」についておたずねします。Ⅰ～Ⅶの各施策についてあなたの〈満足度〉を、1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

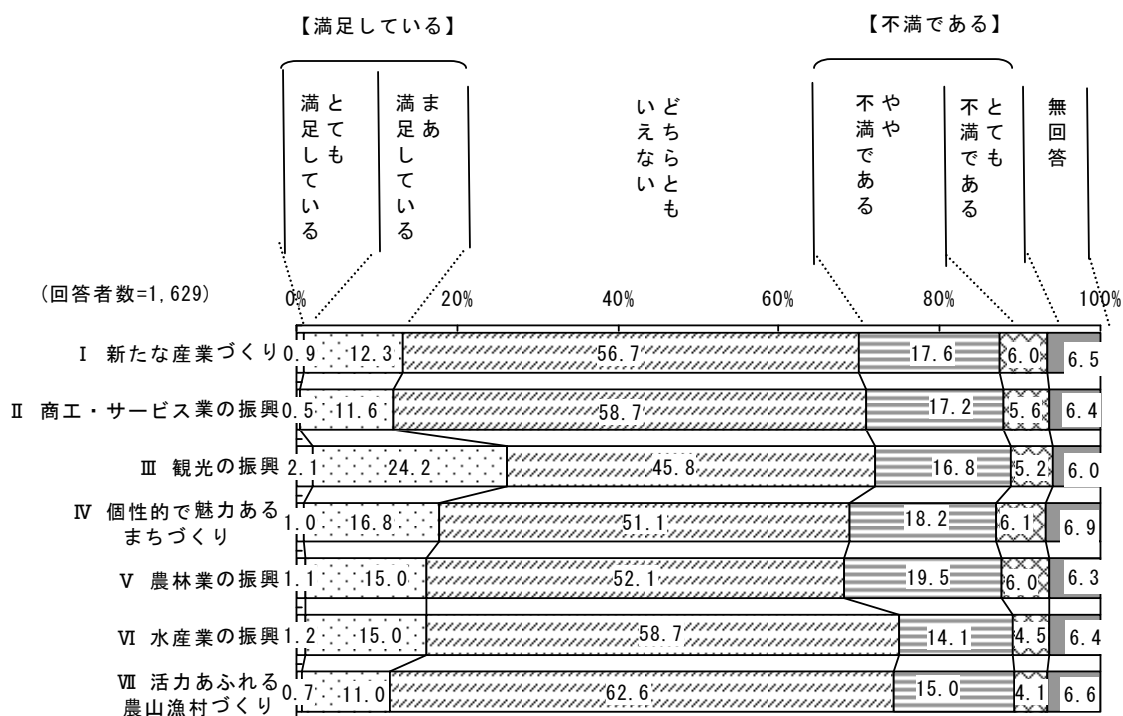
(単位：%)

	満足度					
	①とても満足している	②まあ満足している	③どちらともいえない	④やや不満である	⑤とても不満である	無回答
〔回答者数=1,629〕						
Ⅰ 新たな産業づくり	0.9	12.3	56.7	17.6	6.0	6.5
Ⅱ 商工・サービス業の振興	0.5	11.6	58.7	17.2	5.6	6.4
Ⅲ 観光の振興	2.1	24.2	45.8	16.8	5.2	6.0
Ⅳ 個性的で魅力あるまちづくり	1.0	16.8	51.1	18.2	6.1	6.9
Ⅴ 農林業の振興	1.1	15.0	52.1	19.5	6.0	6.3
Ⅵ 水産業の振興	1.2	15.0	58.7	14.1	4.5	6.4
Ⅶ 活力あふれる農山漁村づくり	0.7	11.0	62.6	15.0	4.1	6.6

「創造性と活力あふれる地域」について満足度をみると、『観光の振興』以外の施策項目では「どちらともいえない」が半数を超えており、なかでも『活力あふれる農山漁村づくり』は6割を超えている。

『観光の振興』以外の施策項目では、【不満である】という人が【満足している】という人を上回っている。

< 創造性と活力あふれる地域(満足度) >



(9) 新時代の基盤 (重要度)

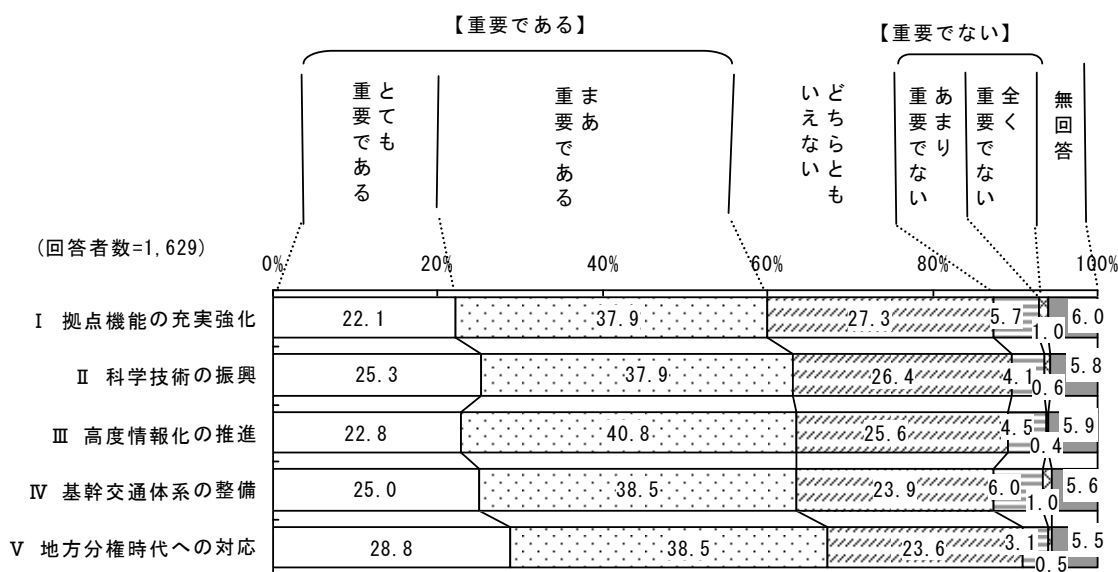
問 27 「新時代の基盤」についておたずねします。I～Vの各施策についてあなたの〈重要度〉を、1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

	重要度					
	① とても 重要である	② まあ 重要である	③ どちら ともい えない	④ あまり 重要で ない	⑤ 全く 重要で ない	無 回 答
[回答者数=1,629]						
I 拠点機能の充実強化	22.1	37.9	27.3	5.7	1.0	6.0
II 科学技術の振興	25.3	37.9	26.4	4.1	0.6	5.8
III 高度情報化の推進	22.8	40.8	25.6	4.5	0.4	5.9
IV 基幹交通体系の整備	25.0	38.5	23.9	6.0	1.0	5.6
V 地方分権時代への対応	28.8	38.5	23.6	3.1	0.5	5.5

「新時代の基盤」について重要度をみると、どの施策項目でも【重要である】という人が6割以上となっている。

〈 新時代の基盤(重要度) 〉



(10) 新時代の基盤（満足度）

問 27 「新時代の基盤」についておたずねします。Ⅰ～Ⅴの各施策についてあなたの〈満足度〉を、1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

	満足度					
	①とても満足している	②まあ満足している	③どちらともいえない	④やや不満である	⑤とても不満である	無回答
〔回答者数=1,629〕						
Ⅰ 拠点機能の充実強化	0.6	14.0	63.9	10.8	2.9	7.8
Ⅱ 科学技術の振興	0.5	10.4	64.8	12.6	3.9	7.8
Ⅲ 高度情報化の推進	0.5	13.5	63.9	11.6	2.6	7.9
Ⅳ 基幹交通体系の整備	1.7	21.3	50.1	14.5	4.9	7.5
Ⅴ 地方分権時代への対応	0.9	10.9	63.4	12.8	4.5	7.6

「新時代の基盤」について満足度をみると、どの施策項目も「どちらともいえない」が半数を超えており、『基幹交通体系の整備』以外の施策項目は6割を超えている。

『拠点機能の充実強化』と『基幹交通体系の整備』については、【満足している】という人が、【不満である】という人を上回っている。『科学技術の振興』、『高度情報化の推進』及び『地方分権時代への対応』については、【不満である】という人が【満足している】という人を上回っている。

〈 新時代の基盤(満足度) 〉

